

フリマアプリの登場で存在感が高まるCtoC市場

◆リユース市場のCtoC（個人間取引）市場規模は約6,500億円

2017年4月、経済産業省は「電子商取引に関する市場調査」、いわゆるネット取引市場に関する調査を公表した。19回目となる今回の調査で初めてCtoC（個人間取引）市場の推計結果を発表した。書籍、衣類、小物・雑貨、ホビー品などの中古品を取り扱うリユース市場における16年のCtoCの市場規模は、ネットオークション市場は3,458億円、フリマアプリの市場規模は3,052億円と、両方合わせると約6,500億円の市場規模になることが明らかになった。リユース市場の取引は、数年前までは、ネットオークションが中心だったが、12年に登場したフリマアプリによる取引が急増している。

◆売買成立の即時性が魅力のフリマアプリ

フリマアプリとは、個人間でリユース品の取引が簡単に出来るスマホ専用のアプリで、売りたいものをスマホで撮影して値段をつければ、そのまま出品できる。出品料は無料で取引が成立した場合のみ手数料が発生する。オークションは出品料や手数料が有料で、価格の決定権は購入者側にあり、入札終了まで待つ必要がある。フリマアプリは、操作の手軽さに加え、出品者に価格決定権があり、購入者が応じれば、即時に売買が成立する点が良いと利用者が増えている。

◆今後も動向が注目されるCtoC（個人間取引）市場

フリマアプリを提供する企業の代表格は13年に創業した「メルカリ」だ。4,000万ものアプリがダウンロードされていて1日の出品数は100万点以上、月間流通総額は100億円を超えている。決済代行や商品の配送についても専用システムを導入していて、利用者が安心して取り引きができる仕組みを提供している。

今回発表されたCtoC市場推計は、リユース市場での数値だが、フリマアプリの登場後、約4年で3,000億円超の市場を形成した勢いには目を見張るものがある。CtoC市場は、ネット、スマホの普及や個人間の取引を評価することのできるSNSの浸透に伴い、今後も着実に拡大していく可能性がある。 【新井佳美】